

「がんばれ。見てるよ。」

学校長 梅田 比奈子

10月23日は、スポーツフェスティバルでした。10月1日までの分散登校を経て、短い準備期間でしたが、子どもたちのがんばりは、本当に素晴らしいものでした。はじける笑顔や一生懸命さが、私たちの気もちも晴れやかにしてくれました。

瀬ヶ崎小の運動会の特色のひとつは、低、中、高学年のブロックで演技を行い、その演技は、上学年が下学年に教えるという事です。毎年、この関わりの中で、子どもたちが大きく成長していくことが、その姿から伝わってきます。

練習の始まりは、上学年の子どもたちが演技を覚えるところから。そして、覚えた演技を、どうしたら上手に教えられるか悩みながら、練習開始です。下学年の子どもたちは、教えてもらったことをマスターしようと頑張ります。スポーツフェスの前日には、声を掛け合う時間を取り、今までの練習を振り返ると共に、明日のがんばりを確認し合うのです。見出しの言葉は、スポーツフェスティバルの開会式でもお話しした、スポーツフェス前日の練習の時に、6年生から5年生に向けた言葉でした。本当にやさしい口調で、「応援しているよ」の思いがこのふた言を聞いただけで心に響いてきました。



そして、こういう関係性を創れる子どもたち・・・本当に誇らしく思いました。

ラグビーワールドカップで活躍した五郎丸歩選手は、次のように言っています。「人を大切にする集団は必ず好循環を生み出し、強くなるだけでなく人々に愛され憧れの集団になるのだと思う。」

瀬小の子どもたちは、スポーツフェスティバルを通して、そんな仲間へ一歩、近づいたのではないかと思います。保護者の皆様には、ご感想、ご意見を様々ないただきました。来年度や今年度のこれからの行事に活



かしていききたいこともありました。ただ、どの感想でも、子どもたちの生き生きとした笑顔と頑張りについて書いていただき、心が温かくなりました。

さあ、11月は、6年生の修学旅行をはじめ、宿泊体験や外に出る機会があります。また、外部の方々にお話を聞いたり、話し合ったりする機会もあります。そして、12月には、「ふれあいフェスティバル」です。子どもたちの「今」を大切にして、知恵を絞っていききたいと思います。スポーツフェスティバルの子どもたちの姿が、私たちに、また、大きな力をくれました。